

ジャングル・ジュース

2005(平成17)年7月20日鑑賞(ホクテンザ1)

★★★★



監督・脚本=チョ・ミノ / 出演=チャン・ヒョク / イ・ボムス / ソン・チャンミン / チョ
ン・ヘジン (エスピーオー配給 / 2001年韓国映画 / 99分)

……最初の舞台は、ソウルの売春街、清涼里^{チョンニャンニ}。ここを根城とした2人のチンピラ主人公は、ヤクの取引、逮捕、組と警察との大乱闘などを体験しながら、大量のヤクをもって命からがら釜山へ逃亡することに。ともに行動するのは、メグ・ライオンという名の馴染みの娼婦。3人はこのヤクをうまく売りさばけるのか？ そして、その命は大丈夫か？ 予想を超えて次々と展開されるエネルギーいっぱいの物語はスリリングで面白いもの。さて、その物語の結末は……？

チョンニャンニ 清涼里とは？

この映画の最初の舞台は、ソウルの売春街、清涼里。ソウル旅行に3度行った私だが、そんなコワイところにはもちろん行ったことはない。しかしソウルの地図を調べたところ、明洞^{ミョンドン}、仁寺洞^{インサドン}、東大門^{トンデムン}などの有名な観光地の東方にたしかにこの清涼里がある。明洞から直線距離で4～5kmというところだ。パンフレットには「ソウルでも悪名高い売春街、清涼里」と表現されているうえ、ここで実際に撮影した時の苦労話書かれているほどだから、かなりのもの(?)なのだろう。次のソウル旅行の際は、是非行ってみなければ……？

2人の主人公

この映画の主人公は、ギテ(チャン・ヒョク)とチョルス(イ・ボムス)の2人。年の設定は20歳前後というところか……？ ギテは子供たちからの「カツあ

げ」を業としている(?) チンピラ。他方チョルスは、父親は真面目に小さな理髪店をやっているのに、「そんな仕事はバカバカしくて継げない」と考えて、その日暮らしをしているが、もともとはサッカーの選手になる夢をもっていた。しかし、ある事情で「男の大切なモノ」を1個失うことに。そんなハンディキャップがあれば、人生にグレても仕方ない……?

ギテを演じるチャン・ヒョクは『火山高』(01年)で一躍注目を集め、『僕の彼女を紹介します』(04年)でチョン・ジヒョンのお相手を務めた俳優。そして、チョルスを演じるイ・ボムスは『アナーキスト』(00年)、『シングルス』(03年)、『オー!ブラザーズ』(03年)で私もお馴染みとなった若手性格俳優の代表格! こんな2人が一体どんな物語を展開してくれるのか楽しみ……?

チンピラとヤクザの格の違い!

清涼里の路地でコソコソとチンピラ稼業をやっているギテやチョルスにとっては、ホンモノのヤクザはカッコよく見えるもの。現にヤクザの幹部は「みだしなみが大切」とばかり、パリッとしたスーツ・ネクタイ姿をキメていることが多い。この映画に登場するヤクザの幹部ミンチョル(ソン・チャンミン)は、そんないい男で、組長からは「武闘派」のお墨付きをもらっている。

ヒョンなことからそんなミンチョルに対して「子分にして下さい」と頼み込み、とりあえず運転手の下働きをやることになったギテとチョルスの初仕事は、ミンチョルの麻薬取引の現場への運転手。仕事は運転だけで、「車の側で待て。10分待っても帰ってこなかったら上がってこい!」と言われた2人は、はじめて持たされたドスを新聞紙に巻いたまま持って待っていた。すると、突然上で、ピストルの音が……。ヤクザの生命なんてチョロイもの……?

現場に駆けつけた2人が見たのは、ミンチョルとミンチョルの相棒がピストルで撃たれて血まみれになっている姿。これを見たチンピラの2人はただすごすごと逃げ出すだけだった……。

ヤクザと警察の攻防戦は?

こんなヤク取引の失敗は、ギテとチョルスのせいではなく、ミンチョルが責任

を負うべきものだったが、組長の命令は非情。「ギテ、チョルスは3日以内にその代金を弁償しろ」と命令されたから大変。そんな高額なヤク取引の損失を弁償するお金など準備できるはずがない2人が思いつくことは……？ しかし、それによってあっけなく2人が「御用！」となったため、その後のヤクザと警察との大乱闘が生まれたから話は面白い。

もちろん、警察が事務所に踏み込んだのはヤク取引容疑だから、何としてもその証拠を発見しなければならないのは当然。しかし、現実は……？ 弁護士の私としては、私が企画している『映画と法律』のシリーズにこの映画を教材として使うわけにはいかない。なぜなら、日本では警察による一斉捜査に対して、ヤクザの組長以下が組織的に反抗し、公務執行妨害罪となることを覚悟して現場で大乱闘になるなどということは到底考えられないからだ。

しかし、何事にも気が荒い韓国人、とりわけ韓国ヤクザは……？ こりゃヘタすると警察官が逆に制圧されるのでは、と一瞬疑ったほど……？ そのうえ、組長のちょっとした「証拠隠滅行為」によって、結局ヤクが発見されなかったから、警察はみじめな敗北……？

「始末書だけとって釈放しろ！」と指示する警察幹部の顔も真っ青で警察の面子は丸つぶれ……？

ヤクを持ってのドタバタ逃避行の行方は？

組長が証拠隠滅罪の危険を犯してまでヤクを隠すのを見ていたのは、ギテとチョルス。ギテは娼婦のメグ（チョン・ヘジン）を頼って逃げる算段をしていたが、チョルスは偶然（？）このヤクの「発見者」を発見……？

そしてヤクはチョルスの手……。無神経にもそれを持参してきたチョルスを見て、ギテは「お前は自分のやっていることがわかっているのか！ そんなものを持っていたら全員殺される！」と激怒したが、チョルスは「毒を食らわば皿まで！」と開き直る始末……？

ところが、メグを含めた3人とも、イザとなるとちゃっかりしたもの。釜山へのドタバタ逃避行が始まる車の中では、ちゃんとヤクをさばいた後の分け前の相談まで……？

■ 「メグ・ライアン」の正体は？

3人はなぜ釜山を目指したのか？ それはメグがただならぬ奴だったから……。そう、このメグ・ライアンというふざけた名前を名乗っている娼婦は、釜山を縄張りとして活動しているチンピラグループのナンバー2だったのだ。どおりで度胸がすわっていると思った……。しかし……。大きな獲物(?)が見えてくると、それまで貧しいながらも団結していた仲間たちの人間関係が狂ってくることはよくあるコト。やっと釜山に着いた時、海が見える栈橋の上、メグが信頼していた女ボスの裏切りによって、ヤクはメグの手から女ボスの手に……。すると今度はギテがメグに対して疑心暗鬼の目を……？

こんなチンピラたち同士のドタバタ劇の中、あのヤク取引の時にてっきり死んだとばかり思っていた大幹部のミンチョルが「復活」し、汚名返上とばかり釜山に車を飛ばしていた。さらにそれを追うのは、組の一斉手入れでの失敗を取り戻さなければならない警察。さて、舞台を釜山に移しての三すくみ、四すくみの攻防戦の行方は……？

■ 最後の舞台は？ そして最後の結末は？

日韓関係は2005年6月をもって日韓国交正常化40周年を迎えたが、竹島問題を中心として、目下最悪の状態であることは周知の事実。しかし、この映画が韓国で公開された2002年3月は韓流ブームが始まる中、良好だったためか、この映画の最後の舞台は……？

また、これだけ危険な目にあっているギテとチョルスのようなチンピラはいつ死んでもおかしくないのだが、不思議なことにそんな奴に限って生き延びるもの……。メグを含むこんな素人3人衆にどれくらい金額のヤク取引などできるわけではないのに、それに挑戦した3人はとんでもないトラブルに巻き込まれたのは当然。しかしてその結果は……？

それを言っちゃおしまいヨ。それは映画を観てのお楽しみに……。？

2005(平成17)年7月21日記